

平成31年度学校経営方針

駒沢看護専門学校

1. 建学の理念・目的

昭和48年(1973年)に「学校法人 駒沢大学岩見沢学園」を創設し、駒沢幼稚園を開園する。昭和53年に駒沢大学保育専門学校を開校する。平成8年には、看護科、介護福祉科を増科し、駒沢大学看護福祉専門学校と改称する。平成26年に他の科を閉科し、看護科だけの駒沢看護専門学校となる。

本校は、駒沢大学の建学の精神である「信・誠・敬・愛」の校是を掲げ、豊かな情操と透徹した知性によって「行学一如」の実践に努める円満な人間形成を教育の理念としている。

駒沢看護専門学校学則の第3条には、「本校は、仏教の教義並びに曹洞宗立宗の精神に基づき学校教育を行い、豊かな人間形成と人格の陶冶を目指している。これを基盤として教育基本法及び関係する諸法令に定める看護師としての知識、技能、態度を修得させるため、学校教育法に基づく専修学校教育を行い、地域社会に貢献できる有能な専門士を育成することを目的とする。」としている。

2. 本校の教育目標

本校の教育目的は、仏教的人間観を基盤とし、社会における看護の役割を認識し、科学的思考による学習体験を通して看護実践能力を修得させ、人間の健康と幸福に貢献できる人材を育成することである。

・ 本校の教育目標

- ① 自らを含めて豊かな人間性と生命の尊厳を認識し、統合的に対象を理解する能力を養う。
- ② 様々な生活を営んでいる人々の生活及び健康の段階を理解し、対象に応じた科学的根拠に基づく看護実践能力を養う。
- ③ 変化する社会の中で、健康・医療・福祉チームの一員として連携・協働し、看護師が担うべき役割を認識して、その責務を果たすことができる能力を養う。
- ④ 専門職としての職業観を高め、主体的に学び続ける基礎能力を養う。

・ 目指す看護師像

- ① 豊かな人間性をもち、生命の尊厳を認識できていること。
- ② 看護師として共感的態度及び倫理観をもって、人を受容できる優しく豊かな人間性が身についていること。
- ③ 職業意識が高まり、看護師として誇りと責任がもて、安全な看護が提供できる基礎が育っていること。
- ④ 自分の意見を表現できることを大切にし、相手の意見を聞きとれ、学び合う仲間づくりができていること。
- ⑤ 保健・医療・福祉と連携・協働し、専門職として臨床実践する基礎力が身についていること。

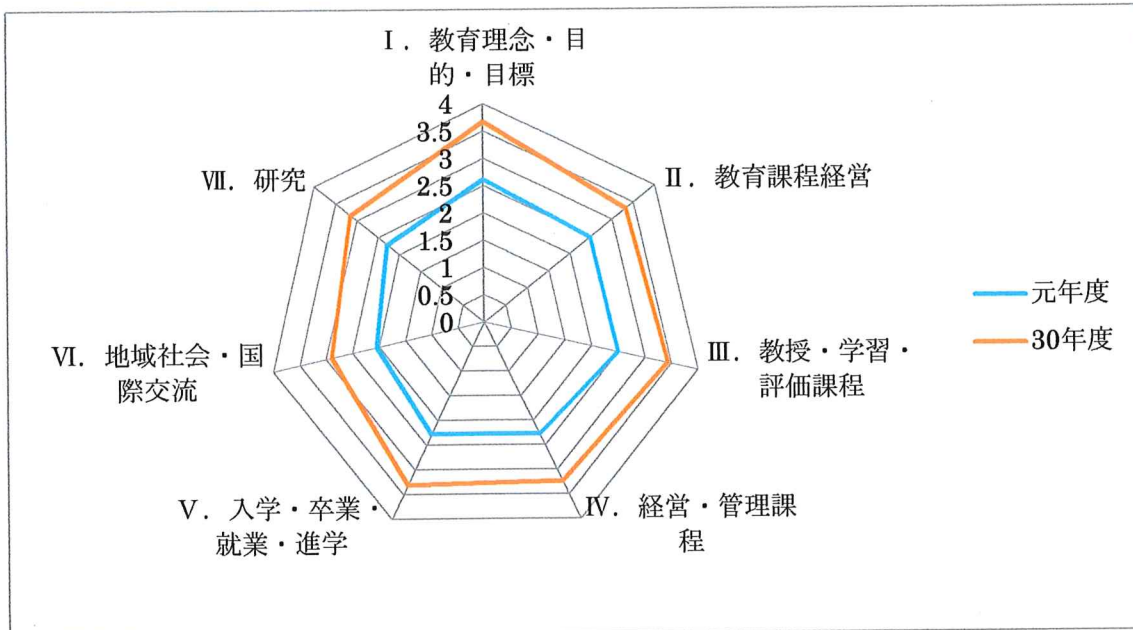
3. 本校の経営方針

◎ 豊かな人間性と自ら学び続ける看護師を育成する教育の推進

観 点	実 践 項 目
学 校 経 営	◎「信・誠・敬・愛」の具現化を目指し、創意に富む学校経営を推進する。 ・全教職員の情報の共有と報連相＋提案による経営参画意欲の向上 ・相互信頼を基に、学年・学級経営を基盤とした組織的な経営の推進 ・情報の積極的な発信による質の高い学生の確保
教 育 課 程	◎教育課程の適正な編成と実施及び評価と改善に努める。 ・基礎・基本を重視し、指導内容の明確化を図る教育課程の編成・実施 ・指導と評価の一体化を図ったシラバスの作成と改善 ・効果を高める看護実習計画(事前・事後指導)の作成、評価計画 ・事務部との連携による教育課程の円滑な実施の推進
学 習 指 導	◎国家試験全員合格を目指し、一人一人の実態に応じた指導の充実と改善に努める。 ・入学準備講座受講の推進とプレテストの実施と活用 ・実習に活用できる学習内容の確実な定着を図る指導方法の充実・改善 ・学生主体による協同学習的な学習の推進 ・学習意欲の向上と自分で学習を進めるコーチング的な指導の充実
情 操 教 育	◎豊かな心を育てる情操教育の推進に努める。 ・芸術や自然に親しみ、美しいものを愛する態度の育成 ・宗教教育及び各教育活動を通じた豊かな心の育成
教 科 外 活 動	◎望ましい人間関係や社会性を育てる教科外活動の充実に努める。 ・創意工夫ある活動を取り入れた計画の作成と実践 ・活動内容の特質に応じた指導の充実と評価、改善
生 活 指 導	◎自らを律する心を育てる生活指導の充実に努める。 ・社会的規範意識、倫理観の醸成 ・共感的な学生理解に基づく教育相談やカウンセリング活用の充実 ・自己指導能力を育成する教育の充実
学 年 ・ 学 級 経 営	◎お互いを認め合い、高め合う学年・学級づくりに努める。 ・学生に役割を持たせ、互いに助け合う自主的活動の推進 ・一人一人の自己実現を支援する学年・学級経営の充実 ・様々な活動を通しての豊かな人間関係、仲間づくりの推進
職 員 研 修	◎教師力の向上を図る研修の充実に努める。 ・習得主義に基づく質の高い授業づくりの充実 ・教師力向上のための積極的な研修会等への参加促進と研修内容の共有を図る研修会の充実
学 校 事 務	◎学校の教育環境の整備と事務の適正な管理・合理化・迅速化に努める。 ・事務処理の効率化を図るための分担の明確化と協働体制の確立 ・円滑な学校運営に資する適正な管理と事務処理の合理化・迅速化

令和元年度 学校評価の結果報告

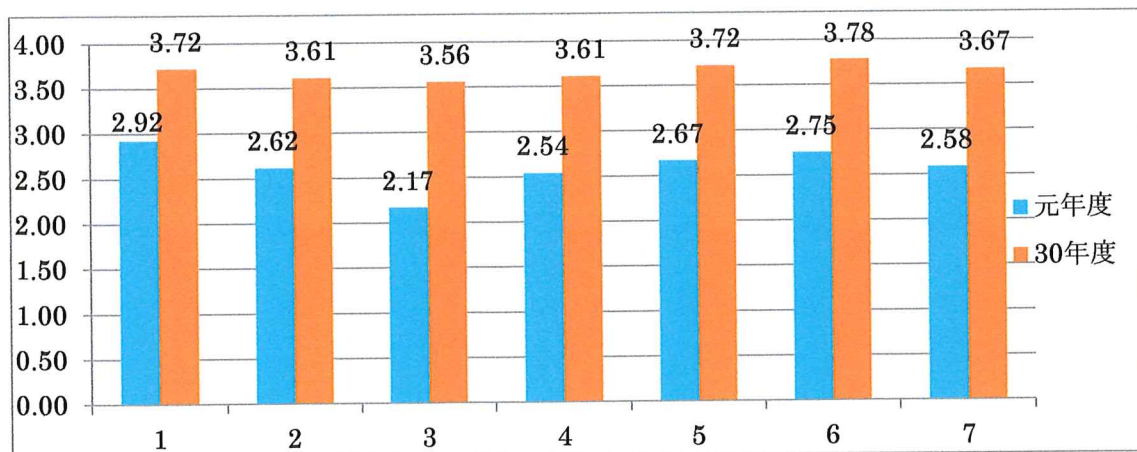
< 7領域における自己評価 >



【分析方法】

「A：そう思う」を4点、「B：ややそう思う」を3点、「C：あまりそう思わない」を2点、「D：そう思わない」を1点とし、平均値を算定した。無回答は平均値の分母から除外した。

I. 教育理念・教育目的・教育目標



1	教育理念・教育目的は、本校の教育上の特徴を示しており、かつ、法との整合性があるか。
2	教育理念・教育目的は、学生にとって学修の指針になるように具体的に明示され、実際に指針となっているか。
3	看護・教育・学生観について、教員の教育活動の指針となるように明示され、実際に指針となっているか。
4	本校の教育理念・教育目的が教育目標と一貫しているか。
5	教育内容は、設定した教育内容を網羅しており、かつ、卒業時の学生の到達度が明示されているか。

6	教育目標は、看護者としての能力を育成する側面と修学者としての成長を促すための側面から設定されているか。
7	卒業後の継続教育の考え方を示した上で看護基礎教育として、教育目標を設定しているか。

1. 現状

本校の理念である「信・誠・敬・愛」の校是と行学一如の建学の精神の実践を通して人間形成を目指す」については全体として昨年度より低くなっており、28年度の2.97に近い数値となっている。

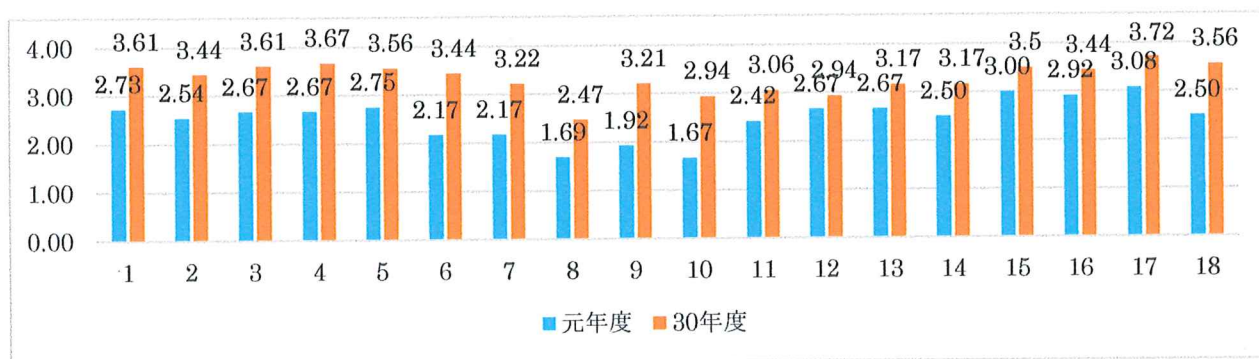
2. 課題

仏教的な精神や、教育理念が実際の教育活動に生かされているのか、坐禅体験自体は良い経験となっているが、それが日常の生活や学習にどう生かされていくのかが課題となっている

3. 改善の方策

校是や建学の精神について、絵に描いた餅ではなく、学生の行動変容を目指す日常の指導のあり方について検討する必要がある。

II. 教育課程経営



1	科目と単元の考え方は、教育理念・教育目的・教育目標と整合性があり、明確な根拠をもっているか。
2	構成した科目は、本校の特徴を表しており、看護者を養成するのに妥当であるか。
3	単位履修の方法とその制約について、教員・学生の双方が解るようになっているか。
4	単位認定の方法は、看護者に必要な学修を認めるものとして妥当であるか。
5	他の高等教育機関と単位互換が可能な体制を整えているか。
6	教育課程を評価する体系を整えているか。
7	教員が専門性を発揮できるように教員の担当科目と時間数を配分しているか。
8	教員が授業準備のための時間をとれる体制を整えているか。
9	教員が自ら成長できるように自己研鑽のシステムを整えているか。
10	教員が相互に成長できるように相互研鑽のシステムを整えているか。
11	臨地実習施設は、本校の教育理念・教育目的、教育目標を理解しているか。
12	臨地実習施設は、学生の看護実践への学修を支援する体制を整えているか。
13	実習施設における学生の学びを保障するために臨地実習指導者と教員それぞれの役割を明確にしているか。
14	実習指導者と教員の協働体制を整えているか。
15	学生からケアを受ける対象の権利を尊重するための考え方を明示しているか。
16	対象の権利を尊重する考え方に基づいて、学生への指導を計画的に行っているか。
17	実習において学生が関係する事故を把握し、分析しているか。
18	学生に対する安全教育、安全対策を計画的に行っているか。

1. 現状

教育課程経営は、昨年の3.32から2.48と低い結果となっている。もともと、教育課程の内容が過密であることや年度途中で4名の退職者があり、そのことが授業

準備や自己研鑽、相互研鑽の時間確保を難しくしたと考えられる。

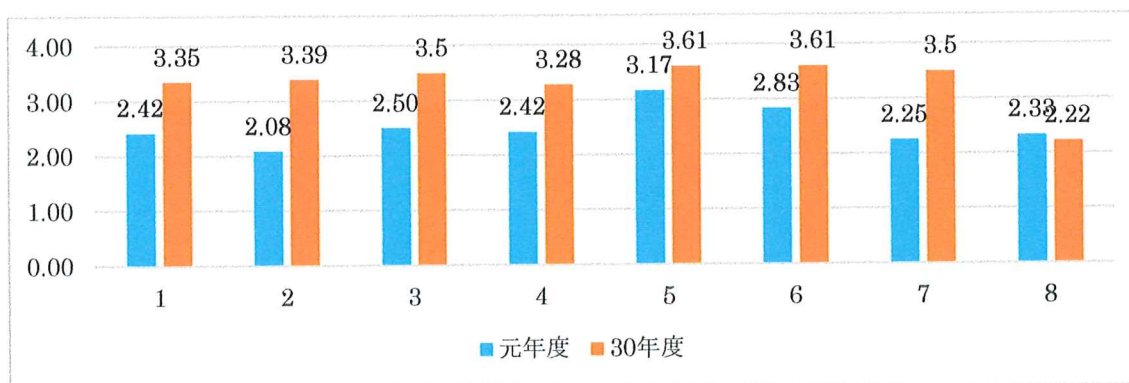
2. 課題

今年度明らかになったのは、教育課程とその運営の中で、大幅な授業時数や演習等の超過があった。指定規則の趣旨を踏まえ、学生にとって適切な授業時数、内容の設定、演習等の精選が課題となる。

3. 改善の方策

- 1) 教員の報告文書や実習での提出物等の精選を行い、教員の業務の効率化を行う。
- 2) 適切な数の実習インストラクターを配置し、必要な教員を学校に戻すことで、教務の機能を止めないこと、また、長いスパンの中で実習施設の集約を図る。
- 3) 実習施設との連携を密にし、実習指導の合理化を図る。
- 4) 採用した教員の定着に留意し、研修等を通して資質の向上を図る。
- 5) 学生が学習や実習等で適切に自ら判断して行動できる能力を育成し、教育効率の向上を図る。

Ⅲ. 教授・学習（講義・演習・実習）・評価課程



1	授業内容のまとまりは、看護学の教育内容として妥当性があるか。
2	学生の理解を効果的に促すために授業内容の重複や整合性、発展性などが明確になっているか。
3	授業内容に応じた授業形態(講義・演習・実験・実習)を選択しているか。
4	教員は、評価計画に基づいて、実際に授業を改善しているか。
5	学生に単位認定のための評価基準と方法を公表しているか。
6	単位認定の評価は、公平性が保たれているか。
7	シラバスの提示や学習への指導は、本校全体として一貫性があるか。
8	シラバスの提示や学習への指導は、主体的な学習への動機づけと支援になっているか。

1. 現状

評価としては、昨年より下がり、2.5という低い結果となっている。

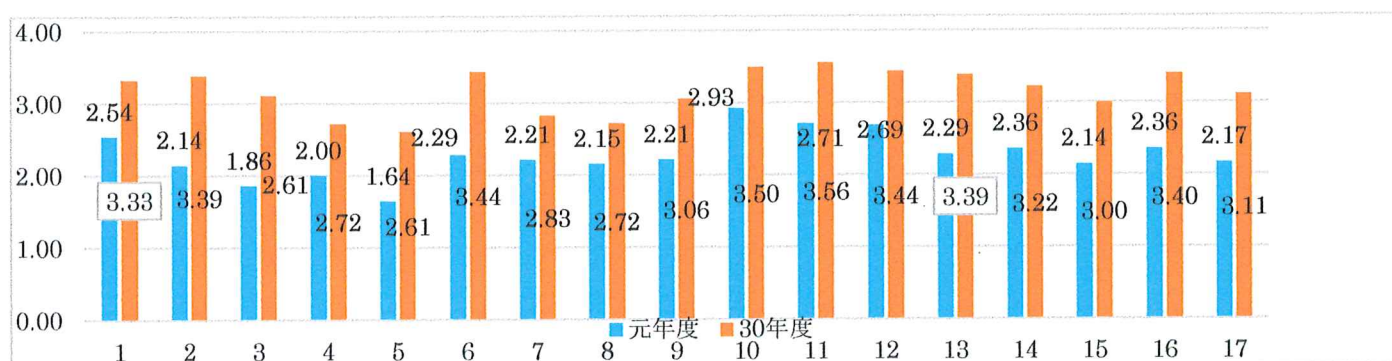
2. 課題

教育課程にシラバスの整合性、一貫性において課題がある。また、長年の課題である学生のアンケートによる授業評価の取り組みが定着せず、教員によって授業の質の差があることが考えられる。

3. 改善の方策

- 1) 本校の教育課程を改善し、適正な教育課程の実施と継続的な改善に努める。
- 2) 教育課程の改善と同様、授業計画及び反省の蓄積、共有を行い、授業研究の効率化を図る。
- 3) 新カリキュラムの作成が近づいており、そのための準備、研究を推進する。

IV. 経営・管理課程



1	教職員は、設置者と管理者の意志・指針を理解しているか。
2	組織体制は、教育理念・教育目的を達成するために意思決定のシステムや権限、役割機能が明確になっているか。
3	組織構成員の意思の反映や決定事項を周知できるような体制を整えているか。
4	教職員は、本校がどのような財務基盤によって成り立っているかを理解しているか。
5	それぞれの観点から財政についての教職員の意見を経営・管理過程に反映できるようになっているか。
6	施設・設備は医療・看護の発展や学生の変化に合わせて計画的に整備改善しているか。
7	教職員の倫理規定が明確になっているか。
8	教職員の資質の向上についての考え方と対策は、教育理念・教育目的の達成と整合性をもっているか。
9	学生及び教職員にとっての福利厚生施設・設備は、学生生活や教職員の職務が円滑に遂行できるように整備されているか。
10	危機管理マニュアルを策定し、それに基づき防犯・防災（避難）訓練を行うなど、安全確保の体制を整えているか。
11	健康管理委員会を設置し、学生の健康管理を支援するための年間計画を立案・実施・評価を行っている。
12	学生が入学後に学習を継続できる支援体制を多角的、かつ学生が活用しやすいように整え、実際に学生生活の支援になっているか。
13	教育・学習活動に関する関係者（保護者等）への情報提供を行うことによって、その協力支援を得ているか。
14	広報活動は、看護者を養成する機関として、その存在を十分にアピールし、かつ社会的説明責任を果たす内容と方法になっているか。
15	本校の運営においては、設置者の将来構想の下に運営の中期・短期計画、年間計画を立案し、実施・評価を行っているか。
16	自己点検・自己評価の体制を整え、学校評価として運用しているか。
17	評価機能は、カリキュラム運営、授業実践にフィードバックし、教育理念、教育目的、教育目標を維持改善するものとなっているか。

1. 現状

数値的に相当に低い評価となっている。年度途中で体制が変わったことがきっかけとなり、組織的な決定手順が確立していない現状が明確になっている。倫理的問題については一定の結果が出ているが、さらに教員の倫理意識が高まるよう、組織としての継続的な取り組みが大事である。

2. 課題

校舎の耐震化について、現在検討中であり、結論までは一定の時間がかかる予定。

動きがあれば、財政や見通し等についての説明が今後課題となる。

各部や各領域での話し合いから会議への手続の確立が課題となる。

ハラスメントや学生と教員の関係についての倫理的なあり方など、組織として明確にする必要がある。

3. 改善の方策

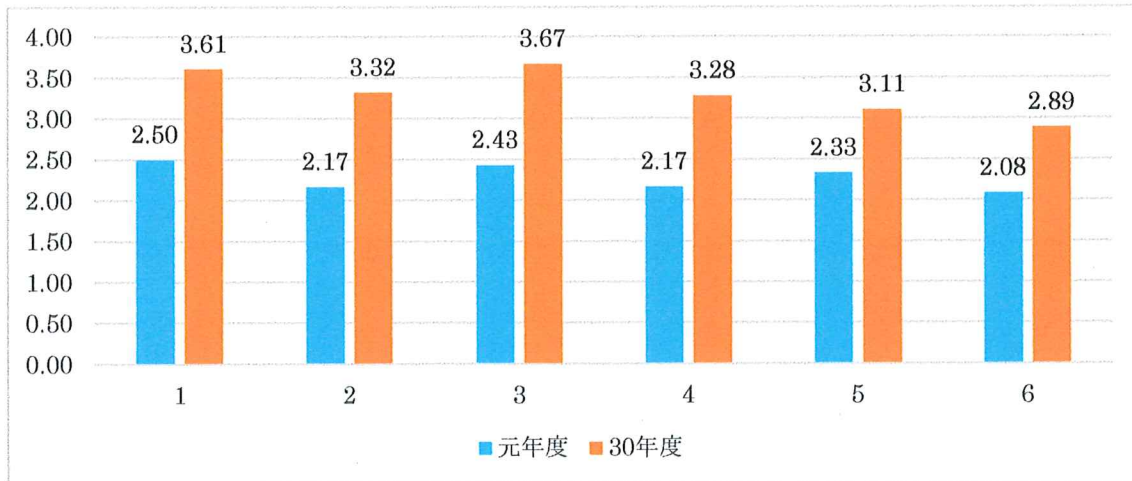
1) 学生数の確保による財務基盤の強化

2) 財政と関わりの強い、将来構想について外部機関と連携して検討している。2023年には一定の結論を出す予定。動きがあれば情報を提供する。

3) それぞれの部や領域毎の教員の業務を明確にして、自分の責任を果たし、組織的な運営を行う。

- 4) ハラスメント防止等については、令和2年度から就業規則の中に位置づけ、「あらゆるハラスメントの禁止」についての服務規律を厳格に実施する。
- 5) 教職員の資質の向上については、Ⅱ教育課程の改善策の4)にあるように、経験の浅い教職員の研修を大事し、温かな職場の雰囲気の中で、教員の定着を図り、計画的な資質の向上に取り組む。

V. 入学・卒業・就業・進学



1	本校の教育理念・教育目的との一貫性から、入学選抜の考え方を明確にしているか。
2	入学後の成績の推移等、入学者の状況を分析し、選抜方法の妥当性を検証しているか。
3	入学希望者を確保するため、積極的な募集を行っているか。
4	卒業時の到達状況及び就業・進学状況を分析し、教育理念・教育目的との整合性を検証しているか。
5	卒業生の就業先での評価を把握するために就業先との情報交換や調査ができる体制を整えているか。
6	卒業生の活動状況を把握し、統計的に整理して、教育理念・教育目的・教育目標、授業の展開に活用しているか。

1. 現状

数値的に昨年度を下回る2.28の結果となっている。今年度看護系の学校への入学希望者数は、大学希望が多く、専門学校は大幅に減少しており、本校についても大幅な減少が見られる。

2. 課題

1) 昨年より入学前講座を入学予定者に勧めており、昨年はほぼ全員の学生が講座に参加しているが、それらの効果とかかる費用を検討し、取り組みそのものの見直しが必要となっている。

2) 今年度は入学者の募集のための学校訪問が十分できなかった。

2) 卒業生の情報については、病院の学校訪問時に近況報告を受けているが、学校として現状把握の取り組みは行っていない。卒業生の就職先での状況の把握については、今後、アンケートなど検討する必要がある。

3. 改善の方策

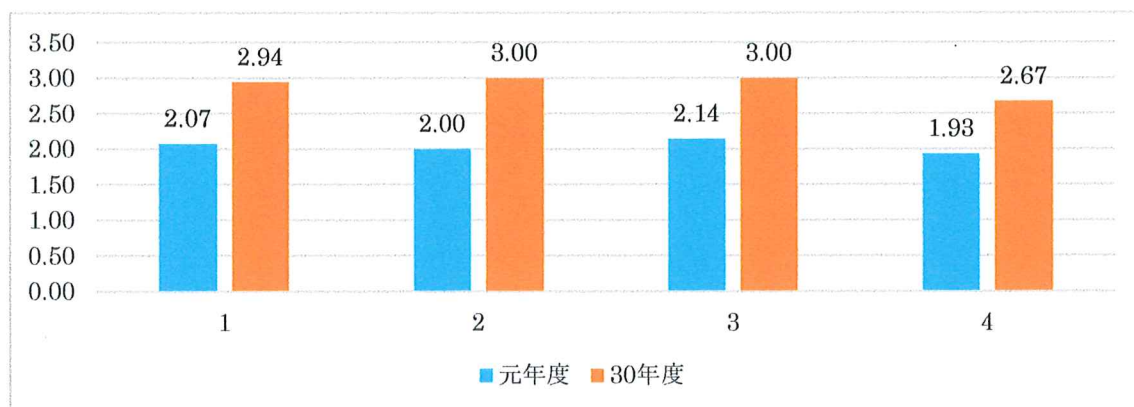
1) 入学前講座の取り組みについて、学生のニーズや希望を優先し、今後の扱いについて検討する。

2) 担当による予備校も含めた高校訪問を充実すると共に、学校の奨学金等、受験者を増やす方策についての検討を行う。

3) 就職病院への事業者アンケートの検討

4) 同窓会のあり方についての検討

VI. 地域社会・国際交流



1	社会と連携し、看護者養成のための教育活動を通して、地域社会への貢献を組織的に行っているか。
2	地域の特徴を把握し、地域内における諸資源を本校の学習・教育活動に取り入れているか。
3	国際的な視野を広げるための授業科目を設定しているか。
4	国際的な視野を広げるための自己学習に適した環境が整っているか。

1. 現状

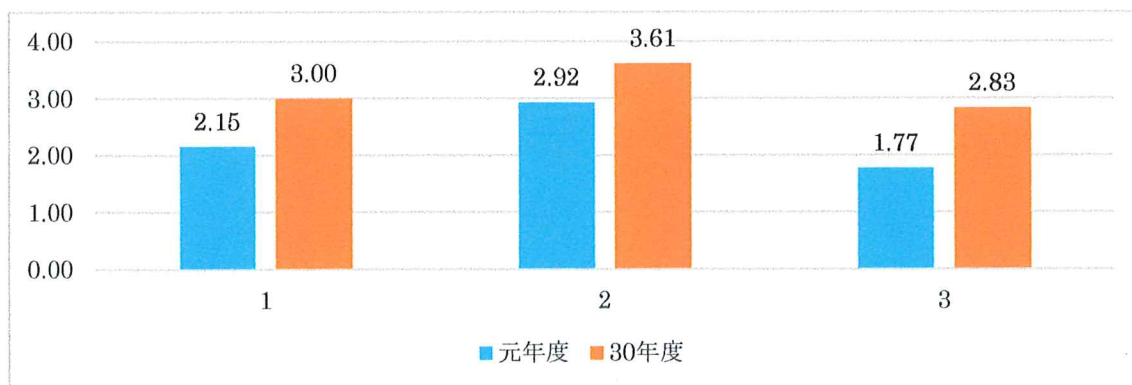
評価は下がっている。地域や国際交流まで目を向けるゆとりがない現状がある。その中で、地域の老健施設などでのボランティア活動や歳末助け合い運動には開設時から継続して取り組んでいる。

2. 課題

自己学習の環境については、図書室の専門図書の拡充や文献検索システム等の導入が今後の課題である。

3. 改善の方策

- 1) 国際的な視野を広げる学習内容の検討。
- 2) ホームページ掲載内容の充実
- 3) 医中誌WEBの導入の検討



VII. 研修

1	教職員の課題や希望に沿った職場内研修を行っているか。
2	学会または研修に参加した成果を他の教職員に還元するしくみがあるか。
3	教員の研究活動を助言・検討する体制が整っているか。

1. 現状

昨年から比べると低下している。Ⅱの教育課程にも記述したが、年度途中複数の退職者が発生し、職場内研修や研究活動が困難になった実態がある。

2. 課題

教員の業務の平準化・スリム化を推進し、研修等を充実させることが継続した課題である。

2. 改善の方策

- ・教員の業務内容について、実習まで含めて整理、精選し、研修に取り組める時間の確保に努める。
- ・教員の定着を図り、研修の成果の蓄積ができる環境づくりを図る。
- ・温かな執務環境づくりを重視し、安心して分からないことが聞ける組織体制を確立する。

学校関係者評価委員の意見

令和元年度の学校評価結果について

各委員から特に具体的事項に関わっての意見はなく。

卒業生委員から

全体を通して

教員の複数退職はカリキュラムをこなす上で極めて困難な状況であったと思う。

教員の奮闘に頭が下がる。との意見をいただいた。